

1 素材需給の動向

(1) 素材需要量

平成30年の素材需要量は2,654万5千m³で、前年に比べ7万9千m³（0.3%）増加した。

これを需要部門別にみると、製材用は1,667万2千m³で、前年に比べ13万m³（0.8%）、木材チップ用は458万6千m³で、7万4千m³（1.6%）それぞれ減少したものの、合板等用は528万7千m³で、28万3千m³（5.7%）増加した。

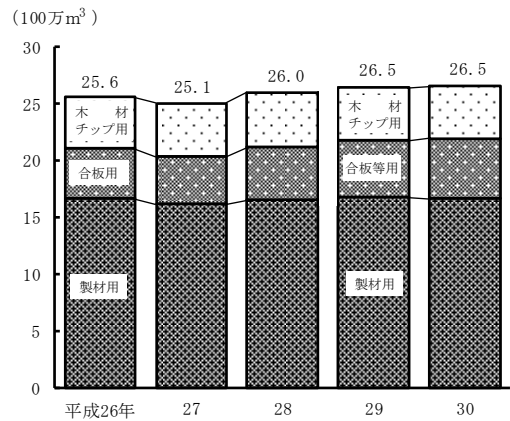
この結果、需要部門別の構成割合は、製材用が62.8%、合板等用が19.9%、木材チップ用が17.3%となった（表1、図1）。

表1 需要部門別素材需要量

区 分	計	単位：千m ³		
		製材用	合板等用	木 材 チップ用
平成29年	26,466	16,802	5,004	4,660
30	26,545	16,672	5,287	4,586
対前年比 (%)	100.3	99.2	105.7	98.4
構 成 比 (%)				
平成29年	100.0	63.5	18.9	17.6
30	100.0	62.8	19.9	17.3

注：1 素材需要量とは、製材工場、合単板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量である。
2 数値については、四捨五入のため、合計と内訳の計が一致しない場合がある（以下の表において同じ。）。

図1 素材需要量の推移



注：平成29年調査から、素材生産量のうち「合板用」を新たにLVL用を含めた「合板等用」に変更したため接続しない（以下の図において同じ。）。

(2) 素材供給量

素材供給量のうち、国産材は2,164万m³で、前年に比べ23万2千m³（1.1%）増加し、輸入材は490万5千m³で、15万4千m³（3.0%）減少した。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は81.5%で、前年に比べ0.6ポイント上昇した（表2、図2）。

図2 素材供給量及び国産材供給割合の推移

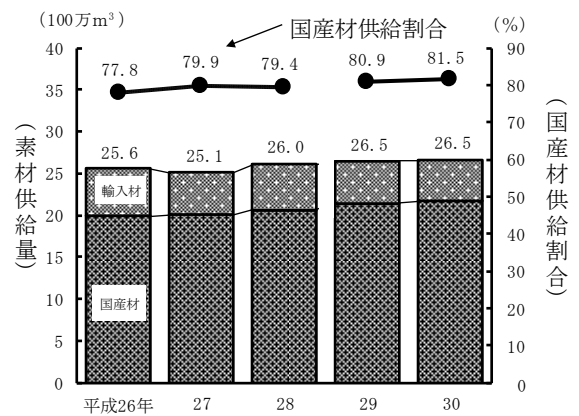


表2 需要部門別、材種別素材供給量

区 分	計	単位：千m ³								
		国 産 材			輸 入 材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成29年										
計	26,466	21,408	19,258	2,153	5,059	217	3,882	348	466	149
製材用	16,802	12,632	12,512	120	4,171	83	3,283	242	421	145
合板等用	5,004	4,122	4,101	21	882	134	594	106	44	4
木材チップ用	4,660	4,654	2,645	2,012	6	-	5	0	1	-
平成30年										
計	26,545	21,640	19,462	2,178	4,905	175	3,746	359	440	185
製材用	16,672	12,563	12,421	142	4,109	43	3,224	243	415	184
合板等用	5,287	4,492	4,472	20	795	132	522	116	24	1
木材チップ用	4,586	4,585	2,569	2,016	1	-	-	0	1	-
対前年比 (%)										
計	100.3	101.1	101.1	101.2	97.0	80.6	96.5	103.2	94.4	124.2
製材用	99.2	99.5	99.3	118.3	98.5	51.8	98.2	100.4	98.6	126.9
合板等用	105.7	109.0	109.0	95.2	90.1	98.5	87.9	109.4	54.5	25.0
木材チップ用	98.4	98.5	97.1	100.2	16.7	nc	-	nc	100.0	nc
構 成 比 (%)										
計	100.0	81.5	73.3	8.2	18.5	0.7	14.1	1.4	1.7	0.7
製材用	100.0	75.4	74.5	0.9	24.6	0.3	19.3	1.5	2.5	1.1
合板等用	100.0	85.0	84.6	0.4	15.0	2.5	9.9	2.2	0.5	0.0
木材チップ用	100.0	100.0	56.0	44.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-

注：素材供給量とは、素材需要量（製材工場、合単板工場及び木材チップ工場への素材の入荷量）をもって供給量としている。

ア 国産材供給量

国産材供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,946万2千 m^3 で、前年に比べ20万4千 m^3 （1.1%）増加した。

これを樹種別にみると、素材供給量の6割弱を占めるすぎは1,253万2千 m^3 で、前年に比べ25万6千 m^3 （2.1%）、ひのきは277万1千 m^3 で、9千 m^3 （0.3%）、えぞまつ・とどまつは111万4千 m^3 で、2万4千 m^3 （2.2%）それぞれ増加したものの、からまつは225万2千 m^3 で、3万8千 m^3 （1.7%）、あかまつ・くろまつは62万8千 m^3 で、1万3千 m^3 （2.0%）それぞれ減少した。

また、広葉樹は217万8千 m^3 で、前年に比べ2万5千 m^3 （1.2%）増加した（表2、表3、図3）。

図3 樹種別素材生産量の推移

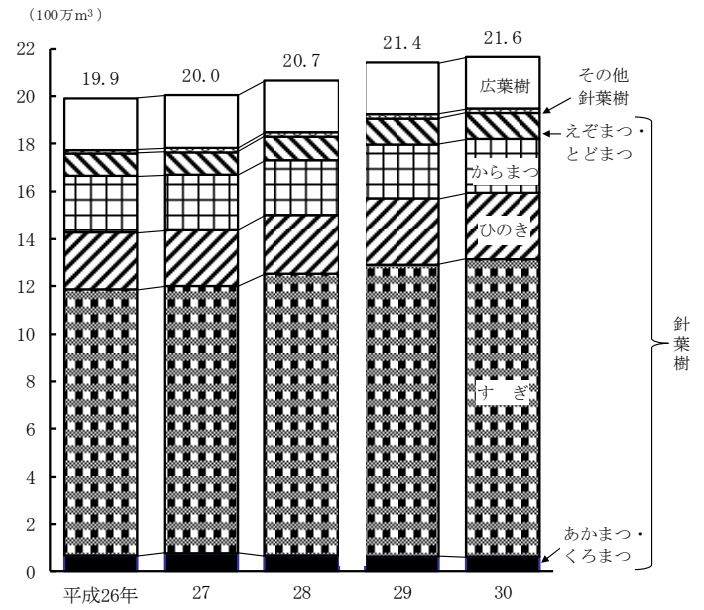


表3 需要部門別、樹種別素材生産量

区 分	計	針 葉 樹							広葉樹
		小 計	あかまつ・くろまつ	す ぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
平成29年									
計	21,408	19,258	641	12,276	2,762	2,290	1,090	198	2,153
製材用	12,632	12,512	146	8,200	2,179	1,208	714	62	120
合板等用	4,122	4,101	184	2,610	303	757	221	27	21
木材チップ用	4,654	2,645	311	1,466	280	325	155	109	2,012
平成30年									
計	21,640	19,462	628	12,532	2,771	2,252	1,114	165	2,178
製材用	12,563	12,421	156	8,237	2,159	1,106	701	62	142
合板等用	4,492	4,472	189	2,851	360	803	242	27	20
木材チップ用	4,585	2,569	283	1,444	252	343	171	76	2,016
対前年比(%)									
計	101.1	101.1	98.0	102.1	100.3	98.3	102.2	83.3	101.2
製材用	99.5	99.3	106.8	100.5	99.1	91.6	98.2	100.0	118.3
合板等用	109.0	109.0	102.7	109.2	118.8	106.1	109.5	100.0	95.2
木材チップ用	98.5	97.1	91.0	98.5	90.0	105.5	110.3	69.7	100.2
構成比(%)									
計	100.0	89.9	2.9	57.9	12.8	10.4	5.1	0.8	10.1
製材用	100.0	98.9	1.2	65.6	17.2	8.8	5.6	0.5	1.1
合板等用	100.0	99.6	4.2	63.5	8.0	17.9	5.4	0.6	0.4
木材チップ用	100.0	56.0	6.2	31.5	5.5	7.5	3.7	1.7	44.0

注：素材生産量とは、国産材である素材についてその入荷元である都道府県で生産されたものとして各都道府県値を集計し、全国値については都道府県計値の積算により算出した結果である。

イ 輸入材供給量

輸入材供給量を産地材別にみると、南洋材は17万5千 m^3 で、前年に比べ4万2千 m^3 (19.4%)、輸入材の8割弱を占める米材は374万6千 m^3 で、13万6千 m^3 (3.5%)、ニュージーランド材は44万 m^3 で、2万6千 m^3 (5.6%)それぞれ減少したものの、北洋材は35万9千 m^3 で、1万1千 m^3 (3.2%)増加した。

また、製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量は38万2千 m^3 で、前年に比べ2万9千 m^3 (7.1%)減少した(表2、表4、表5、図4)。

図4 輸入材供給量の推移

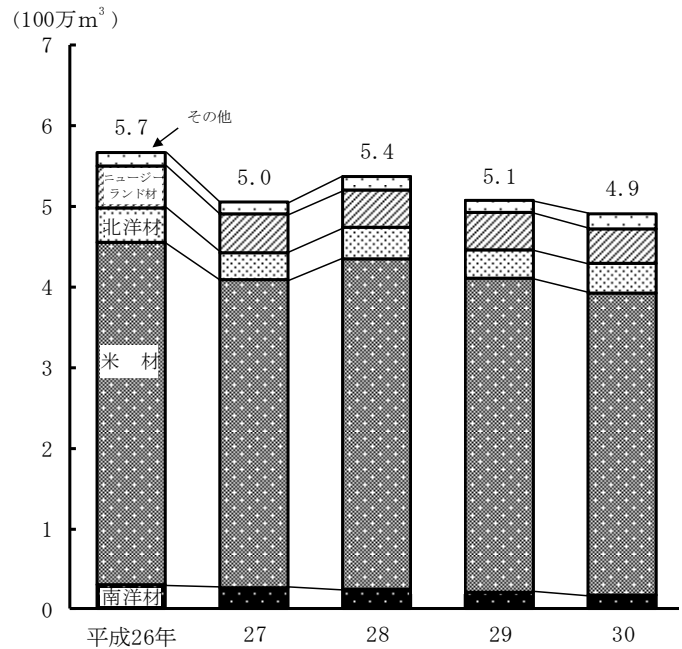


表4 輸入材供給量

区 分	単位: 千 m^3					
	計	南洋材	米 材	北洋材	ニュー ジーラン ド材	その他
平成29年	5,059	217	3,882	348	466	149
30	4,905	175	3,746	359	440	185
対前年比 (%)	97.0	80.6	96.5	103.2	94.4	124.2
構 成 比 (%)						
平成29年	100.0	4.3	76.7	6.9	9.2	2.9
30	100.0	3.6	76.4	7.3	9.0	3.8

表5 製材用素材の輸入材のうち半製品入荷量

区 分	単位: 千 m^3					
	計	南洋材	米 材	北洋材	ニュー ジーラン ド材	その他
平成29年	411	10	127	163	27	84
30	382	3	88	151	28	112
対前年比 (%)	92.9	30.0	69.3	92.6	103.7	133.3
構 成 比 (%)						
平成29年	100.0	2.4	30.9	39.7	6.6	20.4
30	100.0	0.8	23.0	39.5	7.3	29.3

2 木材産業の動向

(1) 製材

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

製材工場数は4,582工場で、前年に比べ232工場(4.8%)減少した。これを製材用動力の出力階層別にみると、300.0kW以上の階層で増加し、それ以外の階層では減少した。

製材用動力の総出力数は62万4,977.6kWで、前年に比べ7,406.9kW(1.2%)減少した。

1工場当たりの出力数は136.4kWで、前年に比べ5.0kW(3.8%)増加した(表6)。

表6 製材工場数及び製材用動力の出力数

区 分	単 位	平成29年	30	対前年比	構成比
				%	%
工場数計	工場	4,814	4,582	95.2	100.0
7.5~75.0kW未満	〃	2,924	2,750	94.0	60.0
75.0~300.0	〃	1,466	1,405	95.8	30.7
300.0kW以上	〃	424	427	100.7	9.3
うち1,000.0kW以上	〃	71	71	100.0	1.5
総出力数	kW	632,384.5	624,977.6	98.8	-
1工場当たり出力数	〃	131.4	136.4	103.8	-

イ 製材用素材消費量

製材用素材消費量は1,664万5千m³で、前年に比べ21万6千m³(1.3%)減少した。1工場当たりの素材消費量は3,633m³で、前年に比べ131m³(3.7%)増加した(表7)。

表7 製材用動力の出力階層別素材消費量

区 分	単 位	平成29年	30	対前年比	構成比
				%	%
計	千m ³	16,861	16,645	98.7	100.0
7.5~75.0kW未満	〃	1,046	965	92.3	5.8
75.0~300.0	〃	3,971	3,528	88.8	21.2
300.0kW以上	〃	11,848	12,152	102.6	73.0
うち1,000.0kW以上	〃	6,900	6,943	100.6	41.7
1工場当たり消費量	m ³	3,502	3,633	103.7	-

ウ 製材用素材入荷量

(7) 製材用素材入荷量は、1,667万2千 m^3 で、前年に比べ13万 m^3 (0.8%)減少した。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材の入荷量は1,256万3千 m^3 で、前年に比べ6万9千 m^3 (0.5%)、輸入材の入荷量は410万9千 m^3 で、6万2千 m^3 (1.5%)それぞれ減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は75.4%で、前年を0.2ポイント上回った(表8、図5)。

図5 製材用素材入荷量の推移

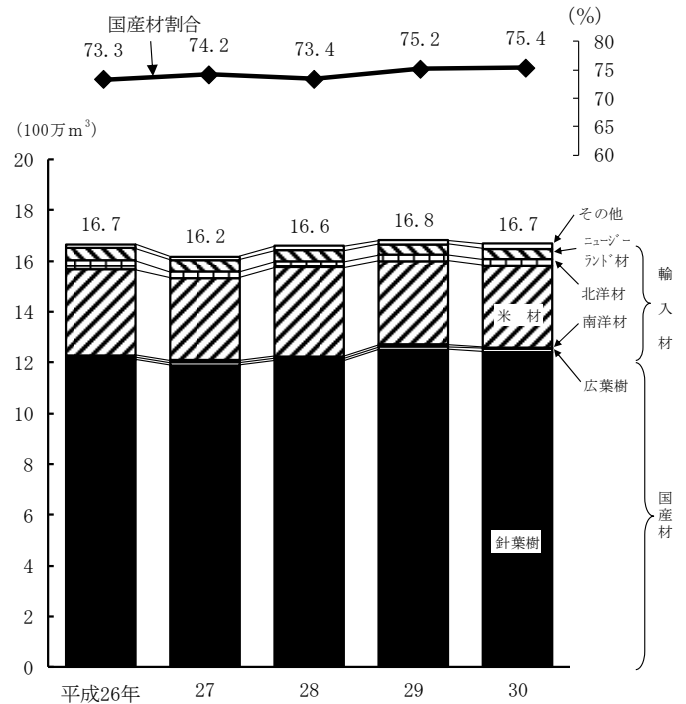


表8 材種別製材用素材入荷量

単位：千 m^3

年次	計	国産材			輸入材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成29年	16,802	12,632	12,512	120	4,171	83	3,283	242	421	145
30	16,672	12,563	12,421	142	4,109	43	3,224	243	415	184
対前年比 (%)	99.2	99.5	99.3	118.3	98.5	51.8	98.2	100.4	98.6	126.9
構成比 (%)										
平成29年	100.0	75.2	74.5	0.7	24.8	0.5	19.5	1.4	2.5	0.9
30	100.0	75.4	74.5	0.9	24.6	0.3	19.3	1.5	2.5	1.1

(イ) 素材の入荷があった製材工場は4,551工場、前年に比べ231工場 (4.8%)減少した。これを入荷類型別にみると、国産材のみは3,521工場、前年に比べ121工場 (3.3%)、国産材と輸入材は792工場、80工場 (9.2%)、輸入材のみは238工場、30工場 (11.2%)それぞれ減少した。

入荷量でみると、国産材と輸入材は272万6千 m^3 、輸入材のみは231万8千 m^3 で、前年に比べそれぞれ28万1千 m^3 (9.3%)、2万6千 m^3 (1.1%)減少したものの、国産材のみは1,162万8千 m^3 で、前年に比べ17万9千 m^3 (1.6%)増加した(表9)。

表9 製材用動力の入荷類型別製材工場数及び入荷量

単位：千 m^3

年次	計		国産材のみ		国産材と輸入材		輸入材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
平成29年	4,782	16,802	3,642	11,449	872	3,007	268	2,344
30	4,551	16,672	3,521	11,628	792	2,726	238	2,318
対前年比 (%)	95.2	99.2	96.7	101.6	90.8	90.7	88.8	98.9
構成比 (%)								
平成29年	100.0	100.0	76.2	68.1	18.2	17.9	5.6	14.0
30	100.0	100.0	77.4	69.7	17.4	16.4	5.2	13.9

注：工場数は、平成30年に製材用素材の入荷のあった工場数である。

エ 製材品出荷量

製材品出荷量は920万2千m³で、前年に比べ25万5千m³（2.7%）減少した。

これを用途別にみると、土木建設用材は37万6千m³で、前年に比べ5千m³（1.3%）、木箱仕組板・こん包用材は112万5千m³で、5万8千m³（5.4%）それぞれ増加したものの、8割強を占める建築用材は746万8千m³で、29万8千m³（3.8%）減少した。

また、人工乾燥材出荷量は393万m³で、前年並みとなった。

製材品の出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合は42.7%で、前年を1.2ポイント上回った（表10、図6、図7）。

図6 用途別製材品出荷量の推移

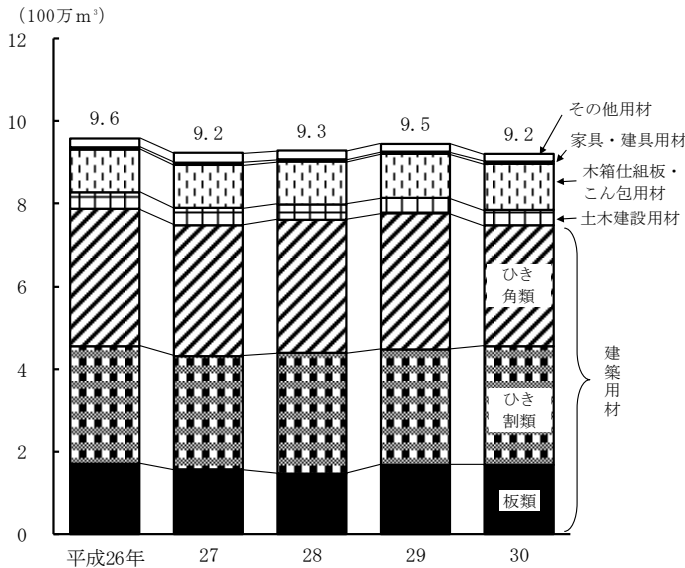


図7 人工乾燥材出荷量及び製材品出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合の推移

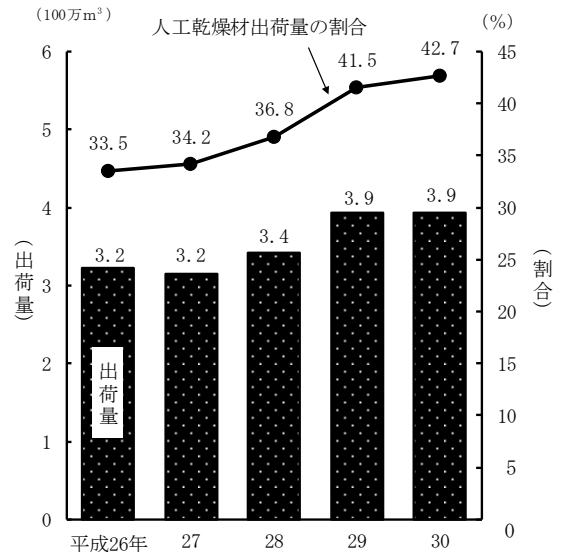


表10 用途別製材品出荷量

年次	単位：千m ³									
	計	建築用材					土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具建具用材	その他用材
		人工乾燥材	小計	板類	ひき割類	ひき角類				
平成29年	9,457	3,929	7,766	1,676	2,794	3,293	371	1,067	61	193
30	9,202	3,930	7,468	1,674	2,876	2,918	376	1,125	61	172
対前年比 (%)	97.3	100.0	96.2	99.9	102.9	88.6	101.3	105.4	100.0	89.1
構成比 (%)										
平成29年	100.0	41.5	82.1	17.7	29.5	34.8	3.9	11.3	0.6	2.0
30	100.0	42.7	81.2	18.2	31.3	31.7	4.1	12.2	0.7	1.9

(2) 合単板及びLVL

ア 合単板工場数

合単板工場数は180工場で、前年に比べ1工場(0.6%)減少した。

これを工場類型別にみると、「単板のみ」を生産している工場は10工場で、前年に比べ3工場(23.1%)、「普通合板と特殊合板」を生産している工場は1工場で、1工場(50.0%)それぞれ減少したものの、「普通合板のみ」を生産している工場は33工場で、1工場(3.1%)、「特殊合板のみ」を生産している工場は136工場で、2工場(1.5%)それぞれ増加した(表11)。

表11 工場類型別合単板工場数(各年12月31日現在)

単位：工場					
区分	計	単板のみ	普通合板のみ	普通合板と特殊合板	特殊合板のみ
平成29年	181	13	32	2	134
30	180	10	33	1	136
対前年比(%)	99.4	76.9	103.1	50.0	101.5
構成比(%)					
平成29年	100.0	7.2	17.7	1.1	74.0
30	100.0	5.6	18.3	0.6	75.6

イ 単板製造用素材入荷量

単板製造用素材の入荷量は528万7千m³で、前年に比べ28万3千m³(5.7%)増加した。

これを国産材、輸入材別にみると、国産材は449万2千m³で、前年に比べ37万m³(9.0%)増加したものの、輸入材は79万5千m³で8万7千m³(9.9%)減少した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は85.0%で、前年を2.6ポイント上回った(表12、図8)。

図8 単板製造用素材入荷量の推移

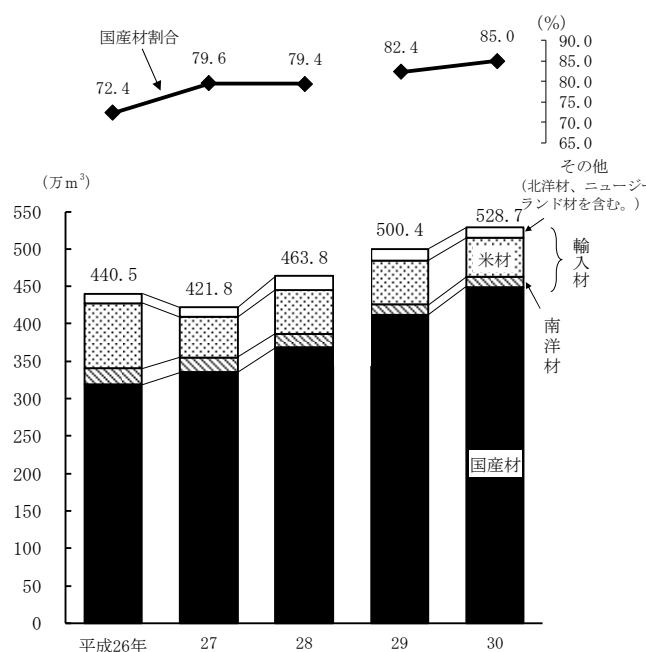


表12 材種別単板製造用素材入荷量

単位：千m ³											
年次	計	国産材			輸入材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	米材	北洋材	ニュージランド材	その他
平成29年	5,004	4,122	4,101	21	882	710	134	594	106	44	4
30	5,287	4,492	4,472	20	795	658	132	522	116	24	1
対前年比(%)	105.7	109.0	109.0	95.2	90.1	92.7	98.5	87.9	109.4	54.5	25.0
構成比(%)											
平成29年	100.0	82.4	82.0	0.4	17.6	14.2	2.7	11.9	2.1	0.9	0.1
30	100.0	85.0	84.6	0.4	15.0	12.4	2.5	9.9	2.2	0.5	0.0

ウ 単板消費量

単板消費量は390万1千 m^3 で、前年に比べ4万6千 m^3 (1.2%) 増加した。

これを用途別にみると合板用が364万 m^3 で、前年に比べ4万1千 m^3 (1.1%)、LVL用が26万1千 m^3 で、前年に比べ5千 m^3 (2.0%) それぞれ増加した (表13)。

表13 単板消費量

単位：千 m^3			
区 分	計	合板用	LVL用
平成29年	3,855	3,599	256
30	3,901	3,640	261
対前年比 (%)	101.2	101.1	102.0
構 成 比 (%)			
平成29年	100.0	93.4	6.6
30	100.0	93.3	6.7

エ 普通合板生産量

普通合板生産量は329万8千 m^3 で、前年に比べ1万1千 m^3 (0.3%) 増加した。

このうち、針葉樹合板生産量は315万 m^3 で、前年に比べ7千 m^3 (0.2%) 増加した。

また、厚さ別にみると、「6mm未満」は7万 m^3 で、前年に比べ7千 m^3 (9.1%)、「24mm以上」は123万5千 m^3 で、1万9千 m^3 (1.5%) それぞれ減少したものの、「6~12mm」は45万8千 m^3 で、1万5千 m^3 (3.4%)、「12~24mm」は153万5千 m^3 で、2万2千 m^3 (1.5%) それぞれ増加した (図9、表14)。

図9 普通合板生産量の推移

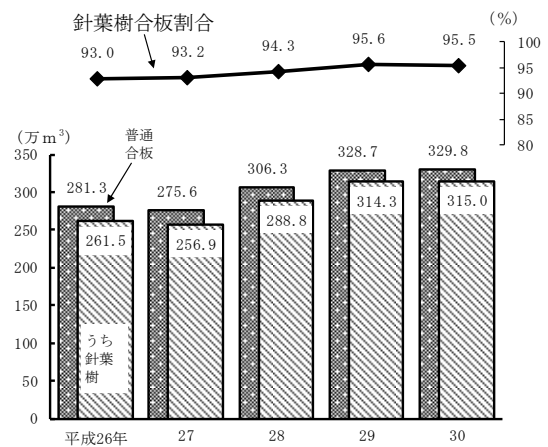


表14 普通合板生産量

区 分	平成29年	30	対前年比	構成比
	千 m^3	千 m^3	%	%
普通合板生産量	3,287	3,298	100.3	100.0
6mm未満	77	70	90.9	2.1
6 ~ 12	443	458	103.4	13.9
12 ~ 24	1,513	1,535	101.5	46.5
24mm以上	1,254	1,235	98.5	37.4
うち針葉樹合板	3,143	3,150	100.2	95.5
うち構造用合板	3,011	2,971	98.7	90.1

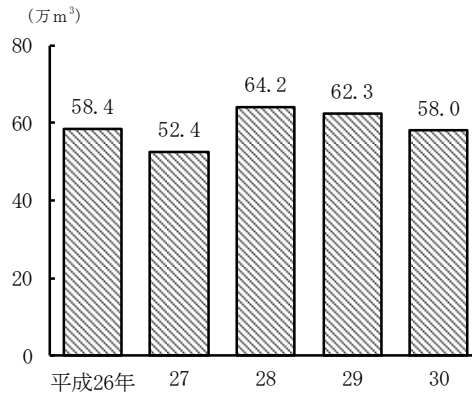
オ 特殊合板生産量

特殊合板生産量は 58 万 m^3 で、前年に比べ 4 万 3 千 m^3 (6.9%) 減少した (表 15、図 10)。

表 15 特殊合板生産量

区 分	平成29年	30	対前年比
	千 m^3	千 m^3	%
特殊合板生産量	623	580	93.1

図 10 特殊合板生産量の推移



カ L V L工場数

L V L工場数は 11 工場で、前年に比べ 2 工場 (15.4%) 減少した (表 16)。

表 16 L V L工場数

単位：工場			
区 分	平成29年	30	対前年比
L V L工場	13	11	84.6

キ L V L生産量

L V L生産量は 18 万 4 千 m^3 で、前年に比べ 5 千 m^3 (2.8%) 増加した。

これを用途別にみると構造用が 8 万 9 千 m^3 で、前年に比べ 1 万 m^3 (10.1%) 減少した (表 17)。

表 17 L V L生産量

単位：千 m^3			
区 分	計	構造用	その他
平成29年	179	99	80
30	184	89	95
対前年比 (%)	102.8	89.9	118.8
構成比 (%)			
平成29年	100.0	55.3	44.7
30	100.0	48.4	51.6

(3) 木材チップ

ア 木材チップ工場数

木材チップ工場数は1,303工場で、前年に比べ61工場（4.5%）減少した。

これを専門・兼営区分別にみると、「木材チップ専門工場」は344工場で、前年に比べ16工場（4.4%）、「製材又は合単板工場等との兼営工場」は959工場で、45工場（4.5%）それぞれ減少した（表18）。

表18 専門・兼営区分別木材チップ工場数
(各年12月31日現在)

年次	計	単位：工場	
		木材チップ 専門工場	製材又は合単板 工場等との兼営工場
平成29年	1,364	360	1,004
30	1,303	344	959
対前年比 (%)	95.5	95.6	95.5
構成比 (%)			
平成29年	100.0	26.4	73.6
30	100.0	26.4	73.6

イ 木材チップ用素材入荷量

木材チップ用素材入荷量は458万6千 m^3 で、前年に比べ7万4千 m^3 （1.6%）減少した。

これを国産材、輸入材別にみると、大層を占める国産材は458万5千 m^3 で、前年に比べ6万9千 m^3 （1.5%）、輸入材は1千 m^3 で、5千 m^3 （83.3%）それぞれ減少した（表19、図11）。

図11 木材チップ用素材入荷量の推移

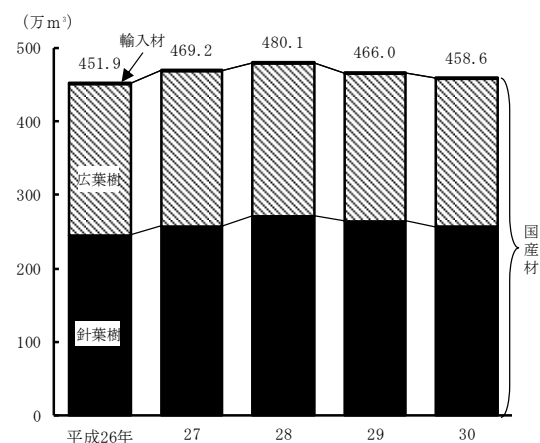


表19 材種別木材チップ用素材入荷量

年次	計	単位：千 m^3								
		国産材			輸入材					
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成29年	4,660	4,654	2,645	2,012	6	-	5	0	1	-
30	4,586	4,585	2,569	2,016	1	-	-	0	1	-
対前年比 (%)	98.4	98.5	97.1	100.2	16.7	nc	-	nc	100.0	nc
構成比 (%)										
平成29年	100.0	99.9	56.8	43.2	0.1	-	0.1	0.0	0.0	-
30	100.0	100.0	56.0	44.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-

ウ 木材チップ生産量

木材チップ生産量は570万6千tで、前年に比べ24万8千t（4.2%）減少した。

これを原材料別にみると、素材（原木）は248万1千tで、前年に比べ7万4千t（2.9%）、工場残材は209万7千tで、9万1千t（4.2%）、林地残材は10万5千tで、2万2千t（17.3%）、解体材・廃材は102万3千tで、6万4千t（5.9%）それぞれ減少した。

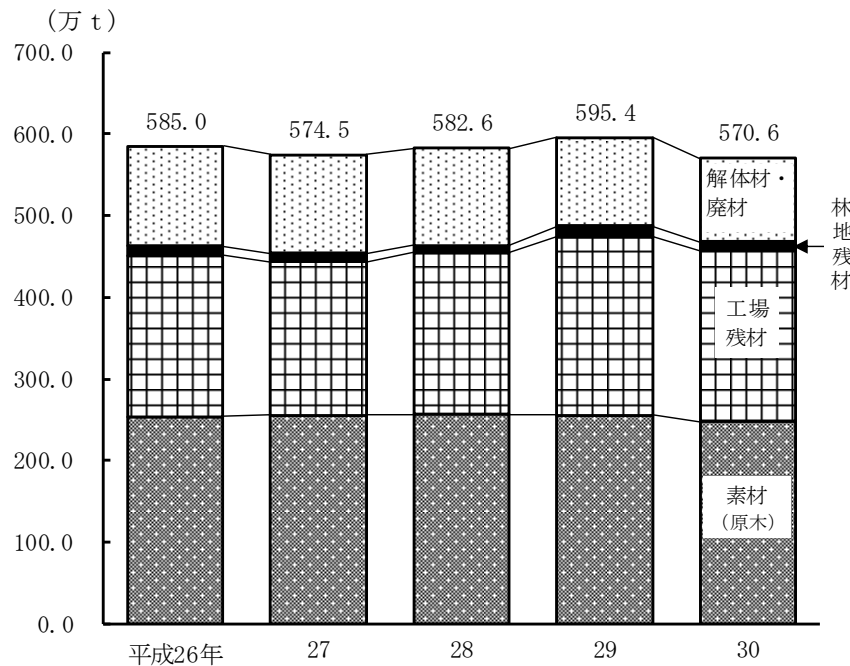
また、針葉樹・広葉樹別にみると、針葉樹は345万2千tで、前年に比べ10万2千t（2.9%）、広葉樹は123万1千tで、8万1千t（6.2%）それぞれ減少した（表20、図12）。

表 20 木材チップ生産量

区 分	平成29年	30	対前年比	構成比
木材チップ生産量	千 t 5,954	千 t 5,706	% 95.8	% 100.0
原材料別				
素材（原木）	2,555	2,481	97.1	43.5
工場残材	2,188	2,097	95.8	36.8
林地残材	127	105	82.7	1.8
解体材・廃材	1,087	1,023	94.1	17.9
針葉樹・広葉樹別				
針 葉 樹	3,554	3,452	97.1	-
広 葉 樹	1,312	1,231	93.8	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図 12 木材チップ生産量の推移



(4) 集成材及びCLT

ア 集成材及びCLT工場数

集成材工場数は165工場で、前年と変わらず、CLT工場数は9工場で前年に比べ2工場(28.6%)増加した(表21)。

表21 集成材及びCLT工場数

単位：工場		
区 分	集成材工場	CLT工場
平成29年	165	7
30	165	9
対前年比 (%)	100.0	128.6

イ ラミナ消費量

ラミナ消費量は271万1千 m^3 で、前年に比べ6万4千 m^3 (2.3%)減少した。

これを用途別にみると集成材用が269万1千 m^3 で、前年に比べ6万4千 m^3 (2.3%)減少し、CLT用が2万 m^3 で前年並みであった(表22)。

表22 ラミナ消費量

単位：千 m^3			
区 分	計	集成材用	CLT用
平成29年	2,775	2,755	20
30	2,711	2,691	20
対前年比 (%)	97.7	97.7	100.0
構 成 比 (%)			
平成29年	100.0	99.3	0.7
30	100.0	99.3	0.7

ウ 集成材生産量

集成材生産量は192万3千 m^3 で、前年に比べ4万8千 m^3 (2.4%)減少した。

これを用途別にみると構造用が185万2千 m^3 で、前年に比べ6千 m^3 (0.3%)減少した(表23)。

表23 集成材生産量

単位：千 m^3						
区 分	計	構造用				その他
		小計	大断面	中断面	小断面	
平成29年	1,971	1,858	55	865	938	113
30	1,923	1,852	27	784	1,041	71
対前年比 (%)	97.6	99.7	49.1	90.6	111.0	62.8
構 成 比 (%)						
平成29年	100.0	94.3	2.8	43.9	47.6	5.7
30	100.0	96.3	1.4	40.8	54.1	3.7

エ CLT生産量

CLT生産量は1万4千 m^3 で前年並みであった。

これを用途別にみると構造用が1万3千 m^3 で、前年に比べ1千 m^3 (7.1%) 減少した (表24)。

表 24 CLT生産量

単位：千 m^3			
区 分	計	構造用	その他
平成29年	14	14	-
30	14	13	1
対前年比 (%)	100.0	92.9	nc
構 成 比 (%)			
平成29年	100.0	100.0	-
30	100.0	92.9	7.1